

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 〈全国学力・学習状況調査〉令和7年4月17日(木)実施(対象:小6、中3) 平均正答率(%)

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
大竹市	70	61	60	56	48	490
広島県	69	59	59	55	47	495
県との差	+1	+2	+1	+1	+1	-5
全国	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503
全国との差	+3.2	+3.0	+2.9	+1.7	-0.3	-13

※中学校理科については、IRT スコアによる表示



2 〈全国学力・学習状況調査〉結果の分析について

【学力調査の結果について】

○小学校の平均正答率は、国語・算数・理科で全国平均と県平均を上回っています。国語では、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題」で正答率が低く、課題がありました。算数では、「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題」で正答率が低く、課題がありました。理科では、「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題」で正答率が低く、課題がありました。

○中学校の平均正答率は、国語で全国平均と県平均を上回っています。数学では、全国平均を下回っていて、県平均を上回っています。理科では、全国平均と県平均を下回っています。国語では、「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題」で正答率が低く、課題がありました。数学では、「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題」で正答率が低く、課題がありました。理科では、「水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題」で正答率が低く、課題がありました。

【今後に向けて】

学力向上につながる授業づくりに向けて、今後、特に次の3点について、取り組んでいきます。

- ① 基礎的・基本的な学習内容について、定着に課題のあった内容のつまずき等の分析を行い、当該学年だけでなく、系統的にくり返し指導を行えるように、学習計画の見直し・実践を行います。特に、数学の「数と式」・「図形」領域と理科「生命」を柱とする領域は課題が見られるため、繰り返し指導を行い、基礎的・基本的な学力の定着を図ります。
- ② 問題形式が「記述式」の問題において、正答率が低かったり、無解答率が高かったりする傾向があるため、授業で児童生徒が記述する場面を設定します。また、授業において、児童生徒に思考力・判断力・表現力が身に付くよう、課題の解決に向けて、様々な思考、判断をし、それを表現する場を設定することで、思考力・判断力・表現力の向上につなげていきます。
- ③ 授業のめあてを明確にし、何が分かったか、どんなことができるようになったか等、ていねいな振り返りを行うことで、児童生徒が「できた」「分かった」と感じ、「主体的な学び」に向かうようにしていきます。